

昨年の秋口から従来の常識が通用しない「変なスピーカー」に取り憑かれています。

情報源：<http://day-pla.net/jazzman/>

丸山徹氏の特許内容を参考に試行錯誤を続けて試作3号機となりました。

今回お披露目するのはこの試作実験3号機です。

構造はいたって簡単、市販の振動スピーカー（エキサイターとかアクチュエーターと呼ばれている）に針を突き立て固定した平面板の一点に取り付け音を出します。

従来の発音方法と根本的に違うのは平面振動板が平行運動をすることなく音を発生します。

この試作3号機に使用した機器

1. 駆動ユニット ウーハー Dayton Audio DAEX32EP-4 エキサイター 40W 4Ω
ツィーター SB Acoustics SB26STAC-C000-4 4Ω
2. ネットワーク 12dB LPF 5kHz HPF 6kHz
3. 振動板 A3サイズ スチレンペーパー
4. 構造体 1辺38mmのホワイトウッド角材
5. サイズ 縦540mm、巾400mm、奥行き200mm、重量7.5kgくらい
6. 塗装 本体：蜜蠟ワックス入り込み ウーハーモジュール&ツィーターモジュール：水性ペイント（黒）

このスピーカーの特徴

- ・前後左右開放なので抜けの良い音が聴ける
- ・ハイスピードで、ダンピングの効いた引きずらない引き締まった低音
- ・実在感抜群の音場
- ・至近距離に置いても違和感なく聴ける不思議
- ・小音量で低音不足を感じない
- ・製作が簡単
- ・余りコストが掛からない

今後の課題

- ・ユニットと振動板周りから出る振動の吸収方法
- ・従来のウーハーのマグネット部分の流用によるレベルアップ

選曲解説

1. 女声ボーカル（有山麻衣子 花嫁人形）MasterQuality盤

マスタークオリティーCDRはオリジナルマスターと同等の音質です！

1) CDRメディアは太陽誘電社マスター専用 CDR-74MYが製造中止のため音質同等品を使用します。

2) 未編集オリジナルマスターからの作成。

3) 普及型ミニコンポでもハイエンドオーディオコンポに迫る再生音に変化。

宇野功芳 企画・指揮 有山麻衣子 幻のコンサート 品番 INF-5001

2. ピアノ スカルラッティ ピアノソナタニ短調 演奏 Angela Hewitt (piano)

録音が優秀 Hyperion LC7533

3. チェロ

バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番からクーランド

聴きどころ YoYoMa の若々しい演奏 SonyRecords SRCR2668~9

4. オルガン

バッハ：トッカータとフーガニ短調 奏者：トン・コーブマン（オルガン）Polydor FG27027

聴きどころ 数ある中で演奏、オルガンの音色、適度な教会の響き、録音、お気に入りの盤

5. オフ会定番その1：オルガン

Eagles 不滅の名盤

5. ポップス（マイケルジャクソン）

ビリー・ジーン あまりオフ会で聴いたことが無いので入れてみました。

7. フィナーレ 鬼太鼓座 富岳八景から三国 最後の3分間くらい

1997年4月、ピクタースタジオ及び山梨県身延町総合文化会館にての録音。エンジニアは高田英男。

マスター音源は1インチ・2チャンネルアナログテープとハーフインチ・アナログテープ音源からのハイレゾ化。

鬼太鼓座（和太鼓）の録音としてはホール録音が中心であるが、富嶽百景の録音について大きな二つの録音テーマを設けた。

テーマ1. スタジオ録音により究極の繊細感ある鬼太鼓座サウンドを目指す。

テーマ2. アナログ録音に拘り、アナログならではの音の魅力を追及する。

具体的な手法として①世界に数台しかない1インチ2チャンネルアナログテープレコーダー（モンスターマシン）を使いミックスする。②マスタリング工程を行わず直接カッティング工場にてA/D変換し、ダイレクトカッティングしたCDを創る。

今思うとかなり無謀な挑戦であった。

録音には繊細且つダイナミックレンジの広い鬼太鼓座サウンドを創り出す為に、コンデンサーマイクを選択。又、スタジオにて録音した和太鼓に響きを創る為、ホールにてスピーカー再生し、ホール音場空間による響きを創った。

スタジオには入らない大太鼓（大和：直径2.25m 重さ座台を含め3トン）はホール録音により迫力ある大太鼓サウンドを目指した。

和太鼓が創り出す歯切れの良いビート感、締め太鼓～尺八の微小音における心地良い緊張感など、究極の「強と弱」から創り出される鬼太鼓座サウンドである。

HDマスタリングの音創りとして、1インチ2チャンネルアナログマスターが持つ音の魅力を忠実にハイレゾ化する為、テープレコーダー再生イコライザーにて低音域を少し強調し、ダイレクトにA/D変換したサウンドアプローチとした。

サウンド・プロデューサー 高田 英男